

科目名		聴力検査			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間	(1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年	必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

聴覚機能の評価法の基礎について学ぶ。

〔授業全体の内容の概要〕

聴覚機能検査について、その理論を学び、各種検査方法を習得する。

〔講師の実務経験〕

言語聴覚士として大阪府立身体障害者福祉センターに勤務。音声学に精通している。

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

- ・各種の聴覚機能検査について学び、実施方法を習得する。
- ・検査の選択と検査結果の解釈について学ぶ。

回数	講義内容
1	標準純音聴力検査のおさらい
2	マスキング ①
3	マスキング ②
4	マスキング ③
5	マスキング ④
6	マスキング ⑤
7	マスキング ⑥
8	聴性誘発反応 ①
9	聴性誘発反応 ②
10	聴性誘発反応 ③
11	耳音響放射
12	自記オージオメトリ、閾値上聴力検査
13	機能的難聴の検査、耳鳴検査、選別聴力検査、その他
14	聴覚機能検査の進め方①
15	聴覚機能検査の進め方②、まとめ

【 準備学習・時間外学習 】

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
聴覚検査の実際 改訂4版		南山堂

【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】

試験、100点満点で評価する。